

歯周病ですい臓がんのリスクが高まる

すい臓がんの早期発見に有用な生物学的指標はない。そこで、本研究では 25 種類の口腔内細菌に対する抗体とすい臓がんのリスクとの関係について検討した。

ヨーロッパのがんおよび栄養の疫学研究のデータを用い、すい臓がん 405 例と対照群として 416 例の診断前の血液サンプルについて口腔内細菌の抗体価を測定し比較した。分析にあたっては、喫煙状況や肥満度指数 (BMI) について補正した。

その結果、歯周病の病原菌のひとつであるポルフィロモナス・ジンジバリス (P.g 菌) に対する抗体価が高値の人 (200ng/mL 超) は、低値の人 (200ng/mL 以下) と比較してすい臓がんのリスクが 2 倍以上高かった (オッズ比 2.14)。非病原性の口腔内常在菌の抗体価との関係も調べたところ、常在菌の抗体価が高値の場合、低値の場合と比較してすい臓がんのリスクが 45%低かった (オッズ比 0.55)。

したがって、歯周病がすい臓がんのリスクを高めていることが推測され、さらに、口腔内常在菌の抗体価が増すと病原菌の増殖を阻害することができ、すい臓がんのリスクを下げられる可能性がある。口腔内細菌がすい臓がんの病因に直接影響しているのか、もしくは免疫応答の指標となるのか、さらなる検討が必要である。

出典 : Gut. 2013; 62(12): 1764-1770.